

## 特別講演

「ウィリアム・オスラーの愛読書と図書への情熱」

聖路加国際病院理事長  
日本オスラー協会会長  
米国オスラー協会 名誉会員

日野原 重明

## 「ウィリアム・オスラーの愛読書と図書への情熱」

William Osler(1849~1919)博士はカナダ生まれでマギル大学医学部を卒業し、母校での教職のあと、アメリカ合衆国で、内科教授として多年働き、最後は英国・オックスフォード大学の欽定教授として70歳で死亡した。

彼は「医学はサイエンスに基礎をおくアートである」という有名な言葉を遺し、医学生への教育と臨床医の教育に生涯を捧げられた偉人である。

私はオスラーが医学生への必読の書として残した就寝前に読む *Bedside library* としての書名を揚げ、その中にはただ医師の著書でなく、新旧約聖書を始めとし、スコラ哲学者や中世、近世の医師、哲学者、文学者の著書が揚げられている。

その彼が残した著書の中では”*Aequanimitas*”「平静の心」が最も有名で、これは彼が医学生や臨床家や学会や招聘講演をまとめて出版した講演集である。

彼が晩年健康を害したために母国英国に帰国したが、1919年に死亡するまで、諸学会や諸大学での招待講演などはすべて記録されて出版されている。

彼はもともと医学だけでなく、プラトンやアリストテレスやエピクテトス、その他中世、近世の文学書や哲学者の本を紹介し、その中でも特に中世のトマス・ブラウン医師の著書「医師の宗教」が彼に大きな影響を与えたと述べている。

その他、ハーベイ、リスター、コッホ、パスツールなどの臨床医についての記載も多く残されている。オスラーは欧州、イタリア、ドイツ、オーストリア、パリ、英国に何回も旅行し、古い文献から近代にいたる文献を蒐集してそのカタログを残している。これは彼の生前はまとめて出版されなかったが、彼の後継者の医師たちがオスラーの死後彼の集めた膨大な書籍のカタログを作り、これを”*Bibliotheca Oslerina*”としてオスラー編書誌集としてオスラーの死後1929年に第一版がA4版792頁の大著として刊行されている。

彼はこれらの資料を中心にいかに医学図書館が大切であることをあらゆる集会で演説している。彼が集めた膨大な書籍は、彼の遺言によりマギル大学医学部、英国と合衆国の大学図書館に分割して寄付されている。医学図書館での司書の専門職の養成に力を注いでおり、彼は書誌学や司書学の重要性を述べている。

彼は70歳で自宅で死ぬ直前までオックスフォードの”*Open House*”と呼ばれた自宅のライブラリーから愛読書を枕元に寄せて、これを甥のフランシス医師により死亡前夜に読んで貰っている。このようなオスラーの生涯を通して、彼と図書との関係並びに書誌学について述べたいと思う。